

2025年 3月期

決算説明会

2025年 5月13日

杏林製薬株式会社

代表取締役社長 荻原 豊



- **2025年3月期 連結決算の概況**
- **主力製品、後発医薬品の取り組み**
- **2026年3月期 連結業績予想**
- **研究開発パイプラインの状況**
- **中期経営計画「Vision 110 –Stage 1–」達成に向けた取り組み**
- **中長期的な企業価値向上と持続的な成長に向けた取り組み**

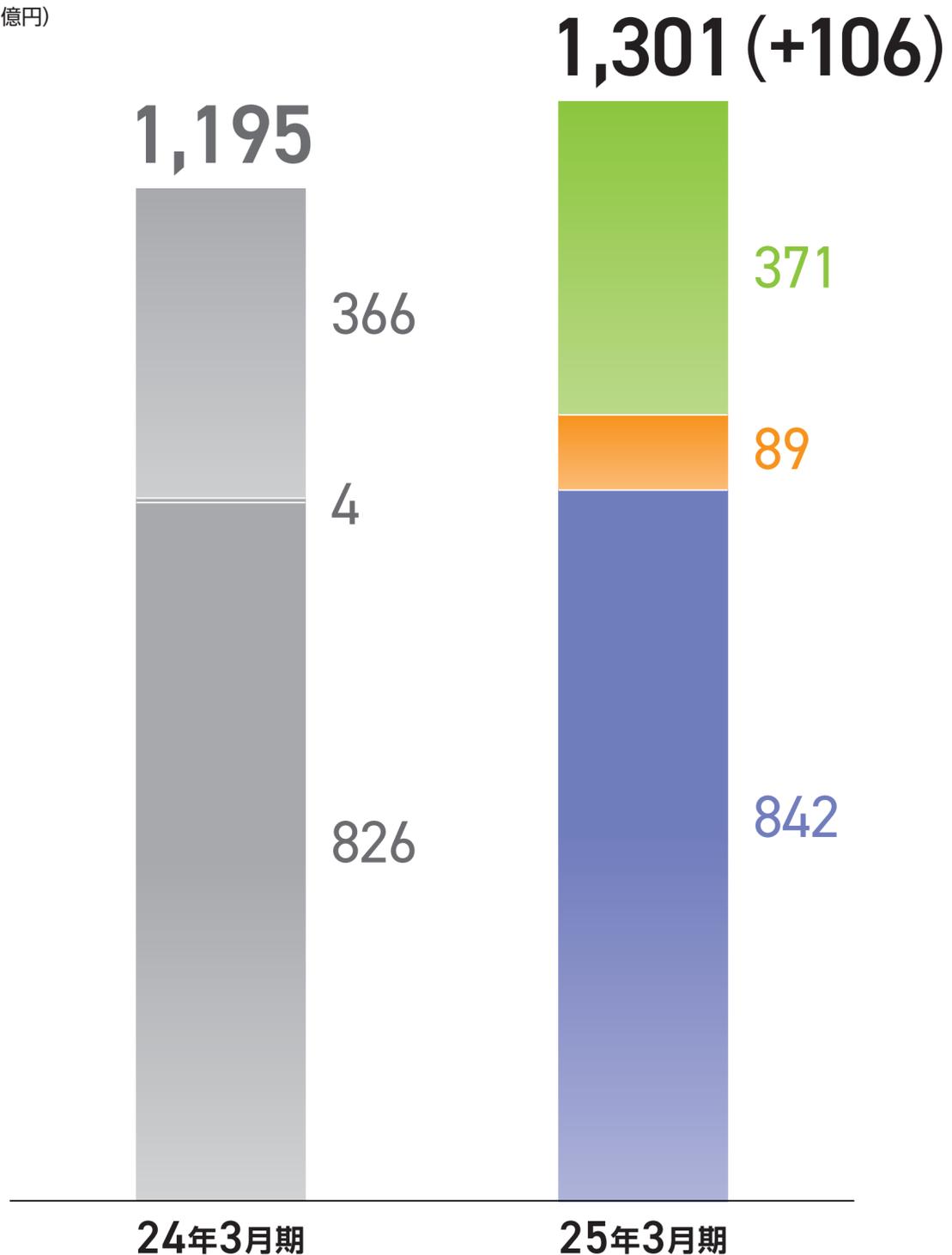
■ 2025年3月期 連結決算の概況

(単位：億円)

	24年3月期	25年3月期	対前期	
			増減額	増減率(%)
売上高	1,195	1,301	+106	+8.8
新医薬品等(国内)	826	842	+16	+1.9
新医薬品(海外)	4	89	+85	+2,195.2
後発医薬品	366	371	+5	+1.4
売上原価	679	706	+27	+3.9
販売費及び一般管理費 (研究開発費)	454 (80)	470 (105)	+16 (+25)	+3.5 (+31.1)
営業利益	62	126	+64	+101.6
経常利益	68	132	+64	+93.8
親会社株主に帰属する当期純利益	55	91	+36	+66.0

※2025年3月期より会計方針の変更を行っており、前期に係る数値については遡及修正後の数値を記載しています。

(単位：億円)



新医薬品等(国内) +16億円

減少要因

- 長期収載品の売上減少(選定療養の影響等)

増加要因

- 新薬の伸長(ベオーバ、ラスビック、フルティフォーム等)

新医薬品(海外) +85億円

- 導出品の契約一時金収入(KRP-M223) 82億円

後発医薬品 +5億円

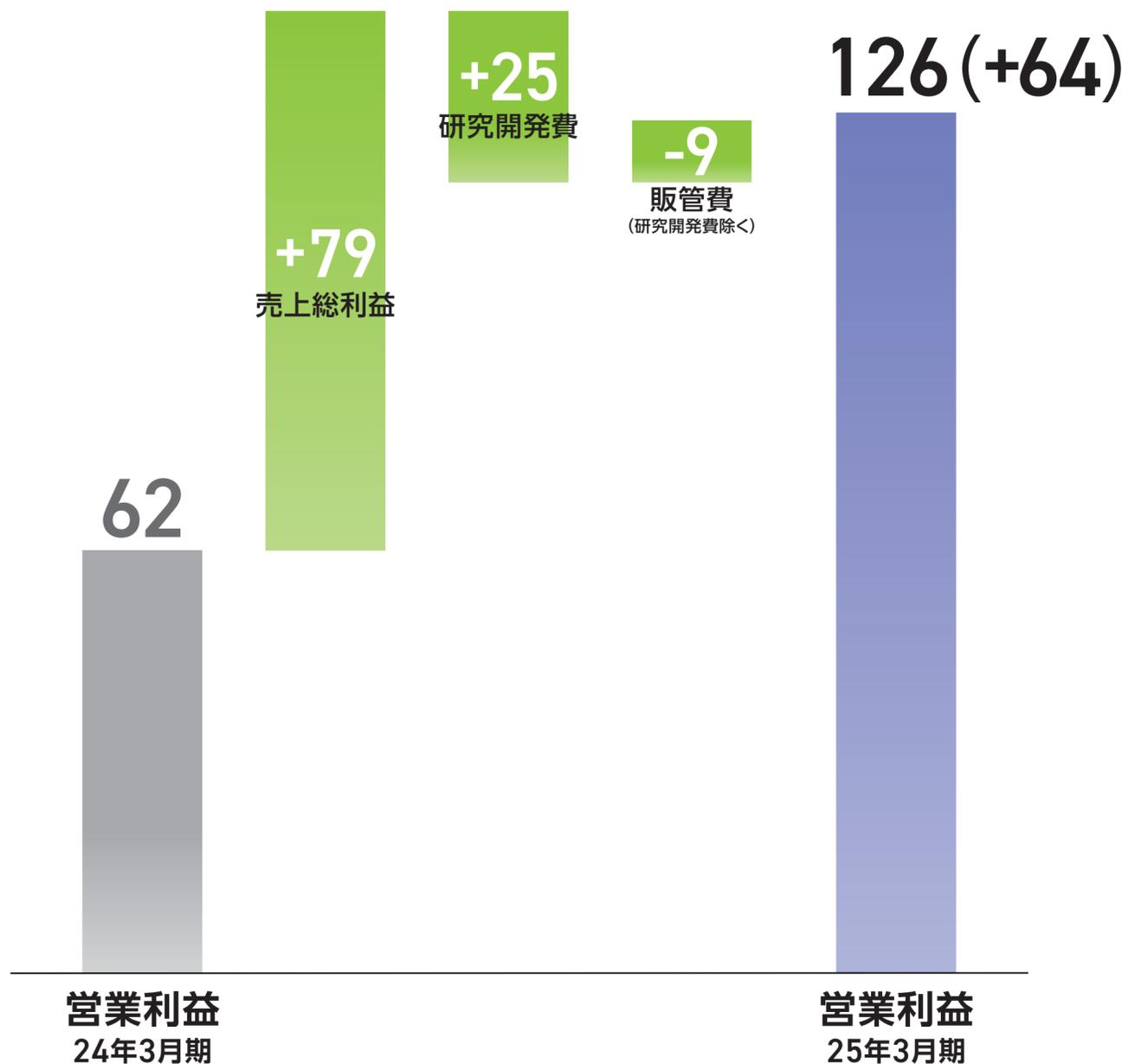
- 24年度追補収載品等の売上寄与
- 薬価改定によるオーソライズド・ジェネリック(AG)等の売上減少

過去最高売上を達成

2025年3月期 業績のポイント② / 対前期：営業利益の増減要因



(単位：億円)



売上総利益 +79億円

売上高 **106億円増加**
 売上原価率 **2.6ポイント低下**

- 上昇要因
 - 薬価改定 (杏林製薬7%台)
 - 為替変動
- 低下要因
 - 新薬 (ベオーバ、ラスビック等) の売上増加 新薬比率の上昇
 - 導出品の契約一時金収入 (KRP-M223)

研究開発費 +25億円

80億円 (24/3期) ⇒ 105億円 (25/3期)
 ● 導入品の契約一時金支出 (KRP-S124) 24億円

販管費 (研究開発費除く) -9億円

374億円 (24/3期) ⇒ 365億円 (25/3期)
 ● 一般経費の増加
 ● 減価償却費、人件費の減少

(単位：億円)

	25年3月期 予想 (24年5月10日発表)	25年3月期 実績	対予想	
			差異	達成率(%)
売上高	1,234	1,301	+67	105.4
新医薬品等(国内)	847	842	-5	99.4
新医薬品(海外)	4	89	+85	2,215.1
後発医薬品	382	371	-11	97.0
売上原価	—	706	—	—
販売費及び一般管理費 (研究開発費)	— (85)	470 (105)	— (+20)	— (123.7)
営業利益	65	126	+61	193.4
経常利益	69	132	+63	191.6
親会社株主に帰属する当期純利益	50	91	+41	181.7

予想(24年5月10日発表)との差異

売上高

研究開発費

販売費及び一般管理費
(研究開発費除く)

導出品の契約一時金収入(KRP-M223)による新医薬品(海外)の大幅な売上増加

導入品の契約一時金支出(KRP-S124)：24億円の計上

コスト削減により減少

2025年3月期 主力製品の売上状況



(単位：億円)

		24年3月期 実績	25年3月期 実績	対前期		25年3月期予想 (24年5月10日発表)	対予想	
				増減額	増減率(%)		差異	達成率(%)
新医薬品等 (国内)	ベオーバ(自社販売分)	181	221	+40	+21.9	220	+1	100.4
	ラスビック	49	78	+29	+58.7	64	+14	122.6
	リフヌア	8	9	+1	+10.6	15	-6	60.9
	デザレックス	89	96	+7	+8.6	96	0	100.2
	フルティフォーム	129	137	+8	+6.8	125	+12	109.9
	ペンタサ	123	122	-1	-0.8	116	+6	104.9
	キプレス	70	35	-35	-49.8	53	-18	66.1
	ムコダイン	42	36	-6	-15.6	43	-7	83.0
	ウリトス(自社販売分)	5	3	-2	-40.9	3	0	104.1
	ミルトン	19	18	-1	-1.7	19	-1	97.0
ルビスタ	15	11	-4	-27.5	15	-4	73.8	
後発医薬品	モンテルカスト錠「KM」	123	120	-3	-2.6	118	+2	101.4
	モメタゾン点鼻液「杏林」	45	41	-4	-9.3	43	-2	95.7
	イミダフェナシン錠「杏林」	6	5	-1	-8.3	5	0	109.8

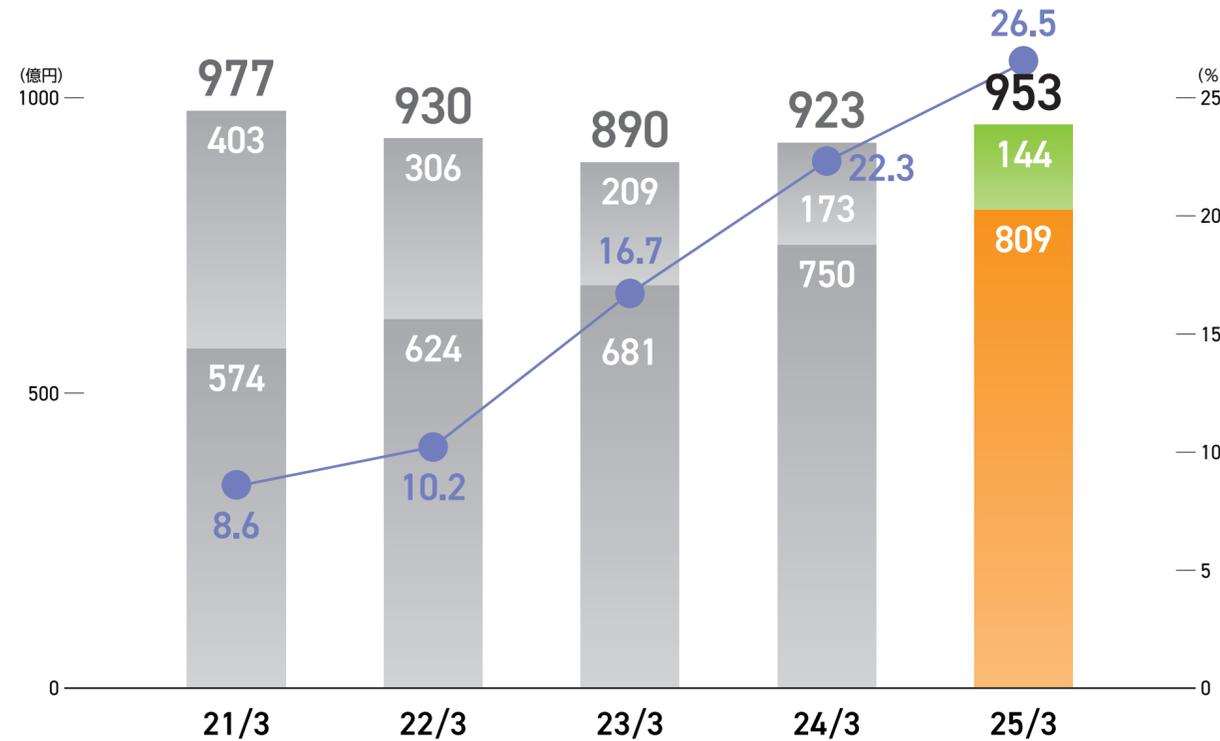
■ 主力製品、後発医薬品の取り組み

[主力製品] ベオーバ(過活動膀胱治療剤)



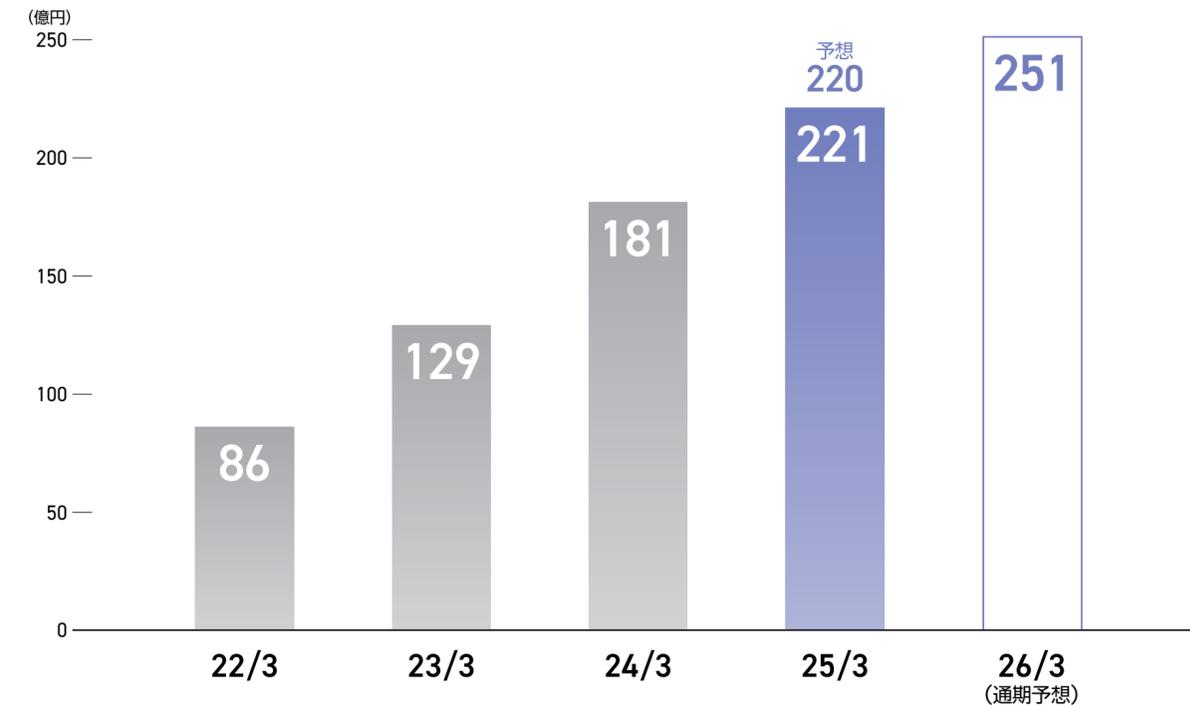
■ 過活動膀胱(OAB)治療剤市場

■ 抗コリン薬
■ β3受容体作動薬
● ベオーバシェア (自社販売分)



出典: Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2021/3 MAT-2025/3 MATを基に自社分析 無断転載禁止

■ 売上高



市場概況

- 過活動膀胱治療剤市場：3.2%拡大^{注1}
- β3アドレナリン受容体作動薬市場の拡大^{注1}

中長期 市場見通し

- OAB患者数は増加傾向
- 薬価改定及び後発医薬品の影響等はあるもののβ3アドレナリン受容体作動薬市場は拡大

24年度の結果

- OAB市場売上No.1を獲得^{注2}
- 新規患者獲得率及び患者シェアNo.1を獲得^{注2}
[2024年4月薬価基準改定率：▲5.27%]

注2: 併売会社との2社合計
Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2025年3月MATを基に自社分析 無断転載禁止
IQVIA Rx 2025年3月を基に自社分析 無断転載禁止

注1: Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2024年3月MAT, 2025年3月MATを基に自社分析 無断転載禁止

[主力製品] ラスビック(ニューキノロン系抗菌剤)

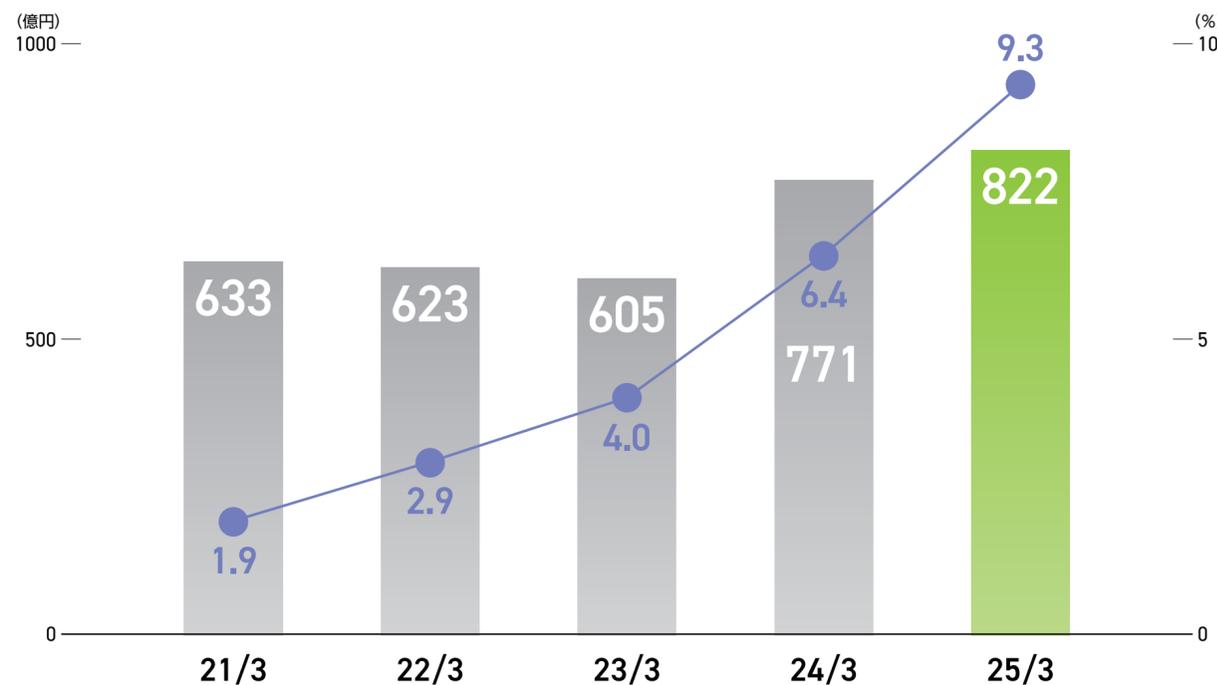


■ 経口抗菌剤市場

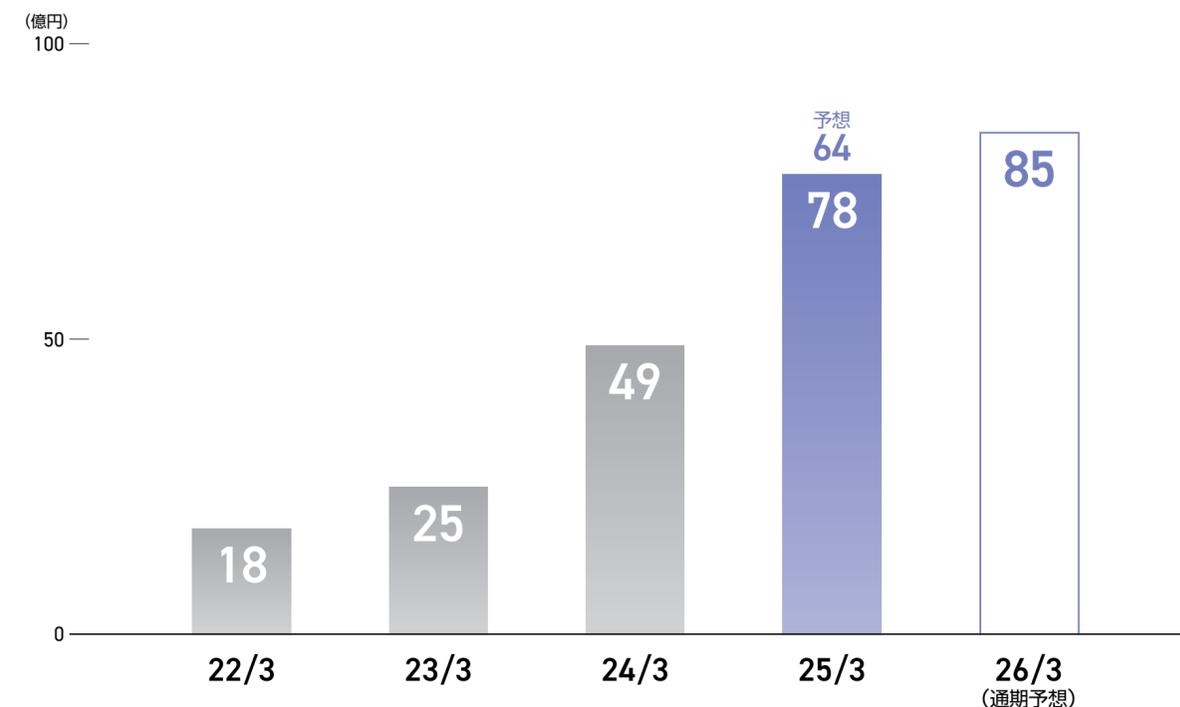
■ 市場売上

● ラスビックシェア

■ 売上高



出典: Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2021/3 MAT-2025/3 MATを基に自社分析 無断転載禁止



市場概況

- 経口抗菌剤市場：6.6%拡大^{注1}
- コロナ禍後における受診行動の回復、マイコプラズマ肺炎等の流行

24年度の結果

- 複数の診療ガイドライン等^{注2}に掲載
- 経口NQ市場における売上シェアNo.1獲得^{注1}
[2024年4月薬価基準改定率：▲6.50%(錠)、▲0.93%(注)]

中長期 市場見通し

- AMR対策の推進により呼吸器・耳鼻科での経口抗菌剤の処方抑制傾向

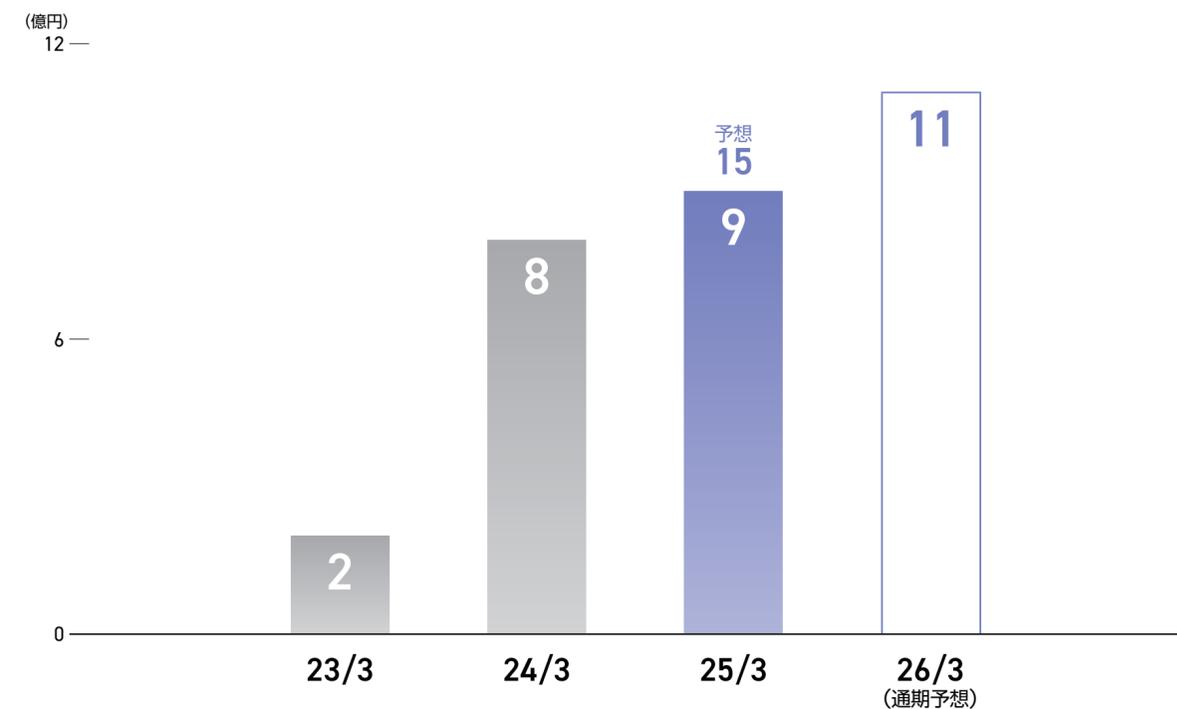
注2: 気道感染症の抗菌薬適正使用に関する提言, 日常診療に活かす診療ガイドライン, JAID/JSC治療ガイド2023, 成人肺炎診療ガイドライン(2024年4月)

注1: Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2024年3月MAT, 2025年3月MATを基に自社分析 無断転載禁止

■ 推定患者数 (有症率から推定)



■ 売上高



24年度の結果

- 服薬継続日数向上への取り組み
(長期データを含めた有効性の訴求、安全性に関する説明)
- 製品特性の理解促進 (神経の知覚過敏による咳を抑制等)
[2024年4月薬価基準改定率 : ▲0.05%]

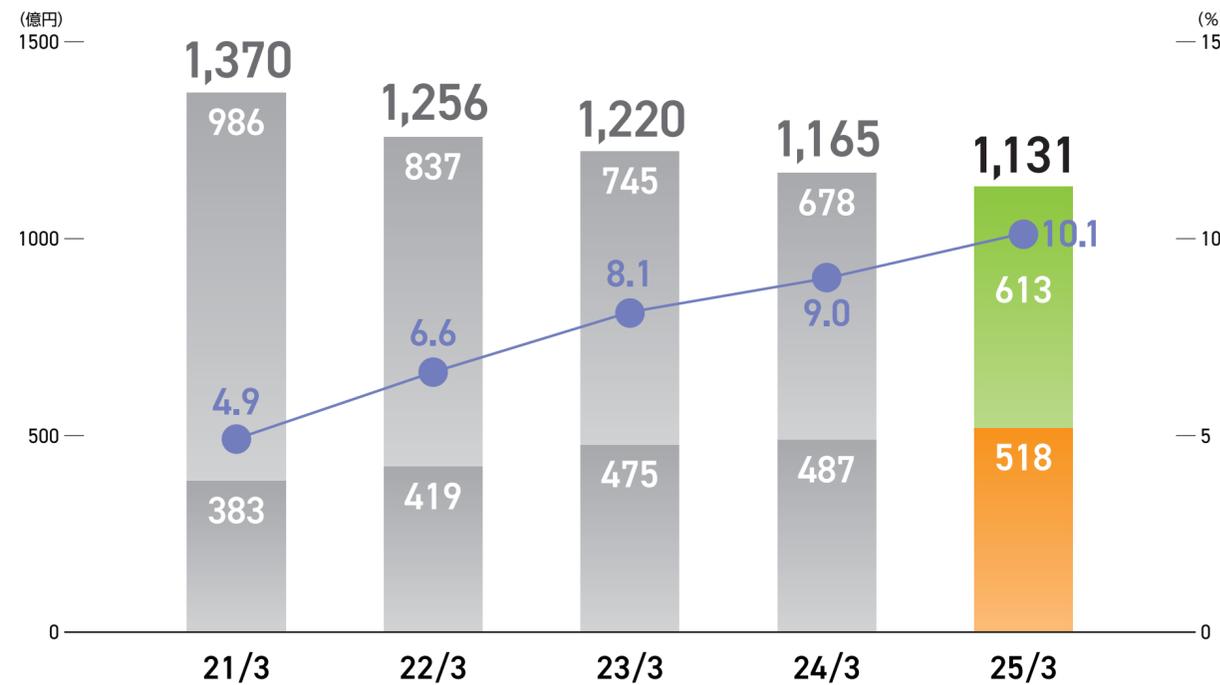
[主力製品] デザレックス(アレルギー性疾患治療剤)



■抗ヒスタミン剤市場

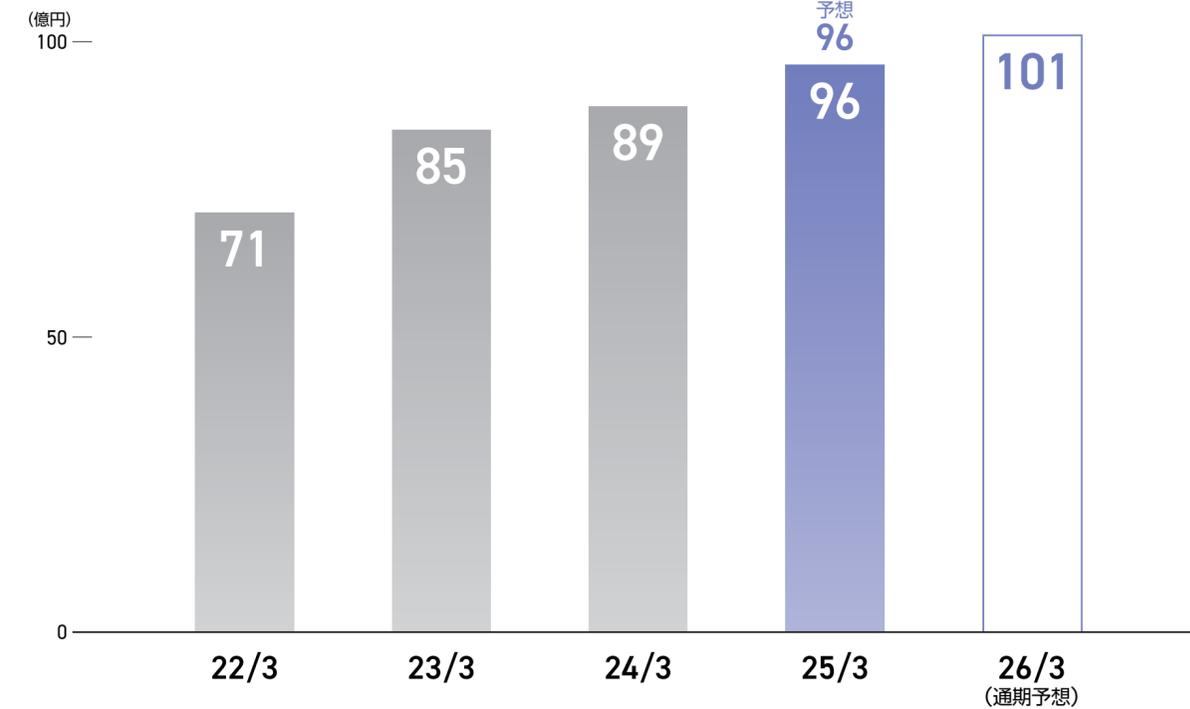
■ 長期収載品・後発医薬品
■ 新薬

● デザレックスシェア



出典: Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2021/3 MAT-2025/3 MATを基に自社分析 無断転載禁止

■売上高



市場概況

●抗ヒスタミン剤市場: 2.9% 縮小^注

中長期 市場見通し

●患者数は増加傾向が継続するものの、薬価改定及び後発医薬品の影響等により市場は縮小傾向

24年度の結果

●売上は順調に推移
●耳鼻科への処方付けの促進、内科での皮膚疾患への取り組み強化
[2024年4月薬価基準改定率: ▲9.36%]

注: Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2024年3月MAT、2025年3月MATを基に自社分析 無断転載禁止

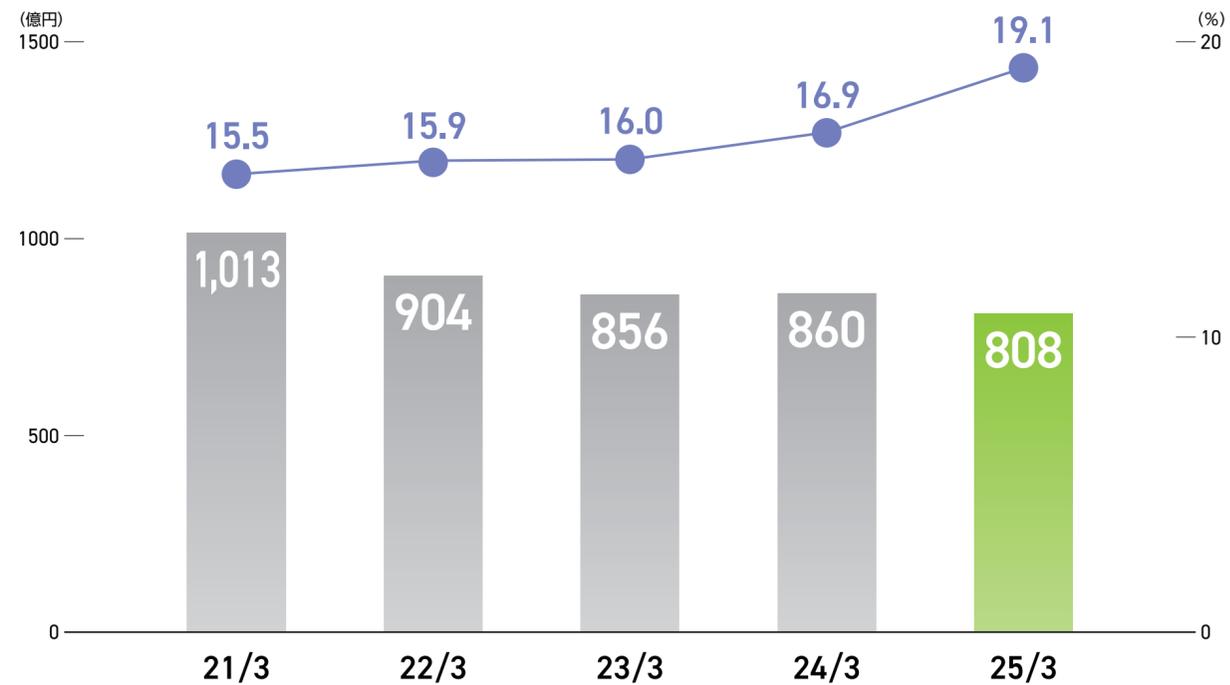
[主力製品]フルティフォーム(喘息治療配合剤)



ICS/LABA配合剤市場

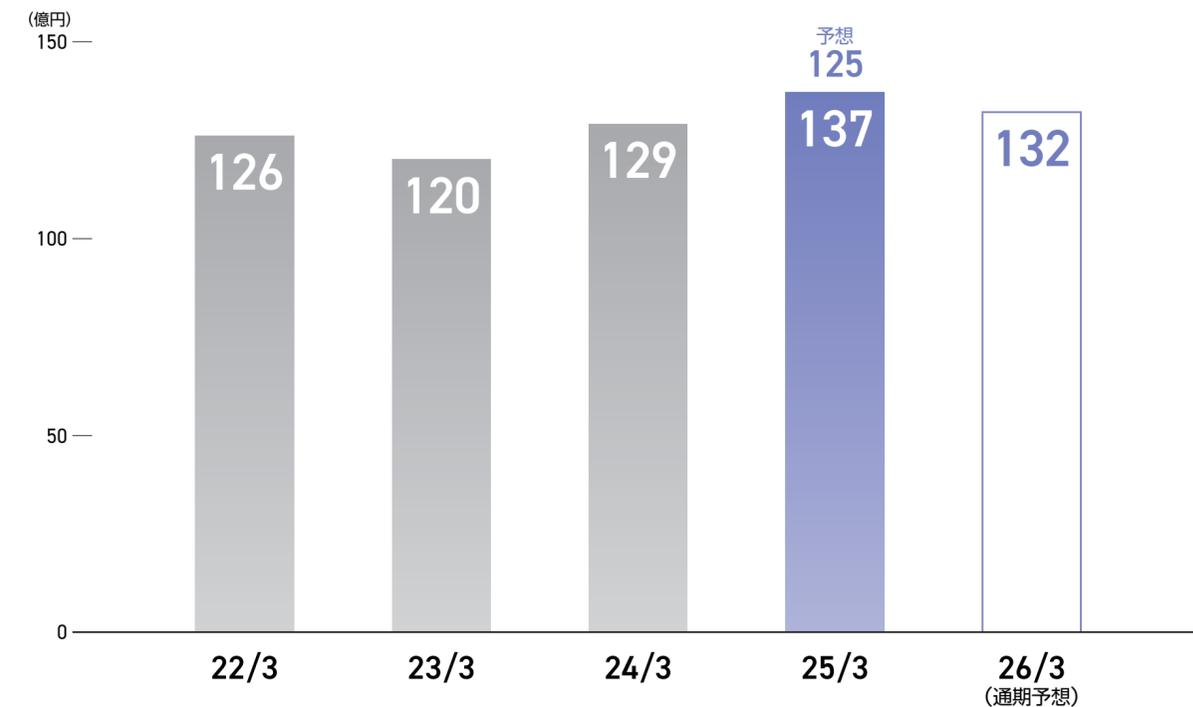
■ 市場売上

● フルティフォームシェア



出典: Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2021/3 MAT-2025/3 MATを基に自社分析 無断転載禁止

売上高



市場概況

- ICS/LABA配合剤市場：6.0%縮小^注
- コロナ禍後における受診行動の回復はあるものの、後発医薬品への切替が促進

中長期 市場見通し

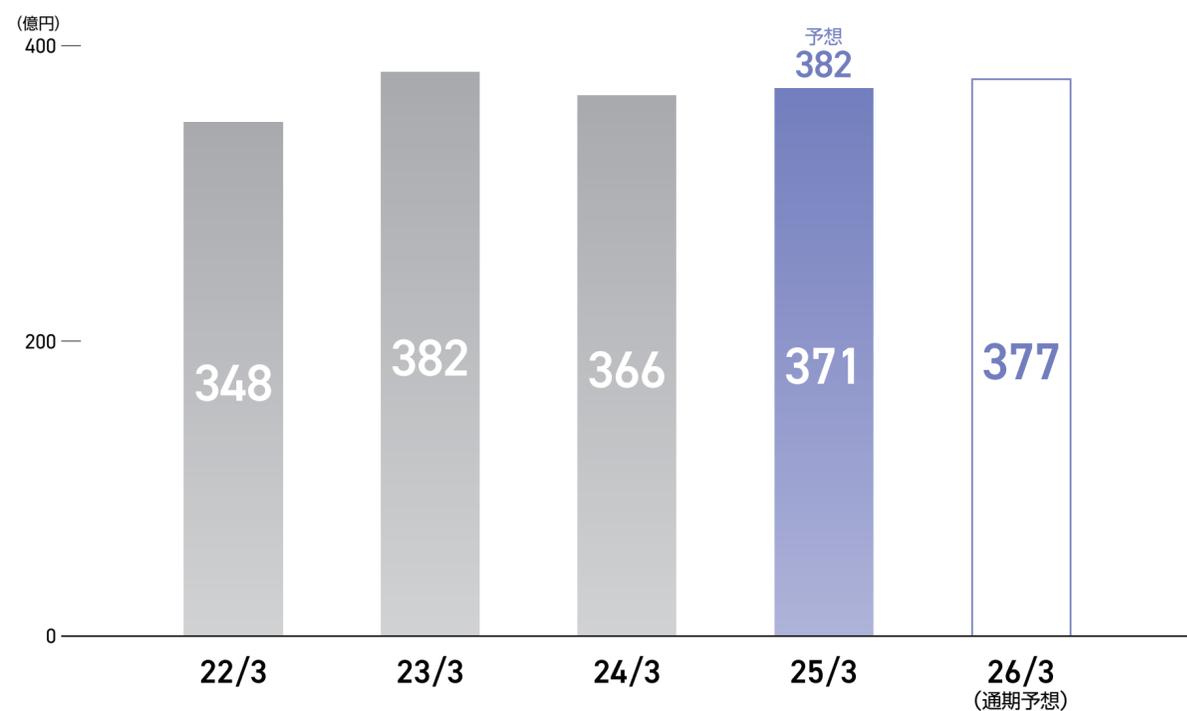
- 患者数は増加傾向であるものの、薬価改定及び後発医薬品の影響等により市場は横ばい傾向

24年度の結果

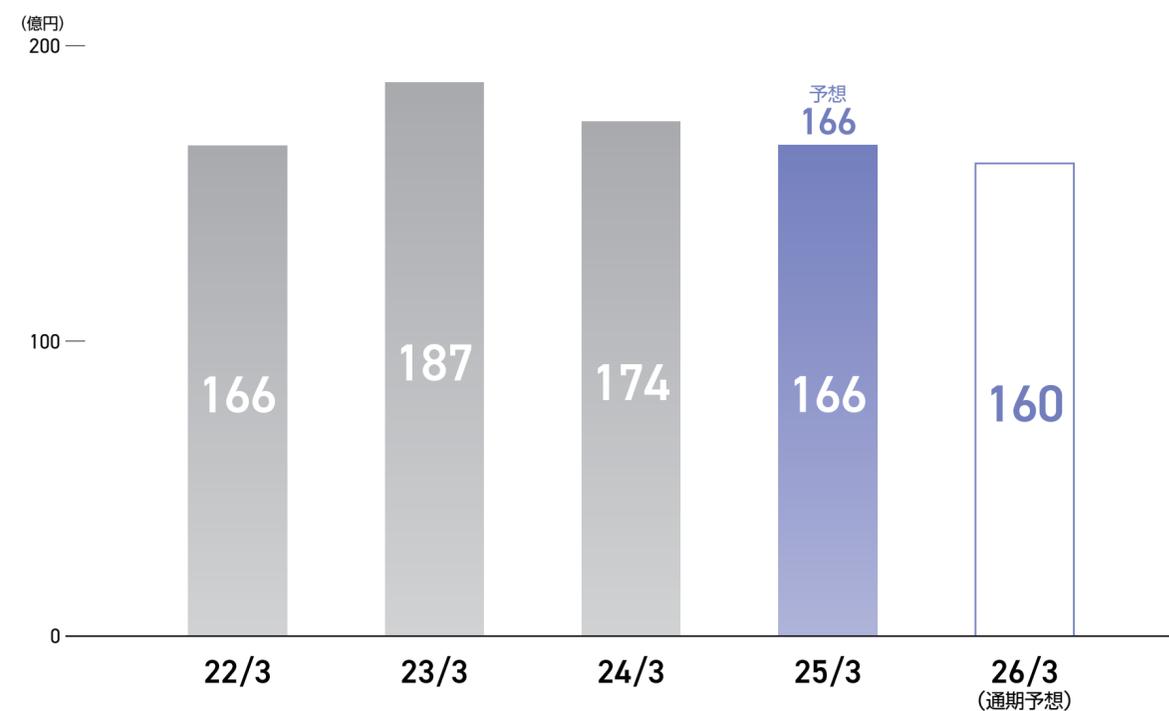
- 売上は順調に推移
- 数量シェア18.7%(24年3月) ⇒ 19.4%(25年3月)
- リフヌアのプロモーション活動との相乗効果により、処方拡大 [2024年4月薬価基準改定率：▲6.31%]

注: Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2024年3月MAT、2025年3月MATを基に自社分析 無断転載禁止

■後発医薬品 売上高



■左記の売上高のうちAG合計(3製品)



24年度の結果
(後発医薬品)

- 24年6月発売の追補収載品 1成分2品目
ゾニサミドOD錠25mgTRE、50mgTRE

25年度の取り組み
(後発医薬品)

- 重点品目の売上拡大

24年度の状況
(AG)

- マイナス要因 ●薬価改定による売上減少
- プラス要因 ●選定療養の影響による数量伸長
- GE内AGシェアは50%以上を継続

■ 2026年3月期 連結業績予想

(単位：億円)

	25年3月期	26年3月期	対前期	
			増減額	増減率(%)
売上高	1,301	1,270	-31	-2.4
新医薬品等(国内)	842	890	+48	+5.8
新医薬品(海外)	89	2	-87	-97.7
後発医薬品	371	377	+6	+1.7
売上原価	706	—	—	—
販売費及び一般管理費 (研究開発費)	470 (105)	— (104)	— (-1)	— (-1.1)
営業利益	126	61	-65	-51.5
経常利益	132	63	-69	-52.3
親会社株主に帰属する当期純利益	91	48	-43	-47.2

増減要因(対前期)のポイント

売上高	新薬(ベオーバ、ラスビック等)の伸長を予想するものの、導出に伴う契約一時金収入(82億円)の反動減などにより売上減少を見込む
営業利益	薬価改定の影響等及び導出一時金収入の反動減等による原価率の上昇により売上総利益は減少を見込む。販売費及び一般管理費は横ばい、減益を見込む
売上原価率	約4ポイント上昇
研究開発費除く販管費比率	約1ポイント上昇
研究開発費	1億円減少(105億円→104億円)：KRP-S124の契約一時金支出(24億円)の反動減、及びKRP-R120の開発進展に伴う費用計上等

2026年3月期 連結業績予想（25年3月期からKRP-M223の影響を除き比較）



(単位：億円)

	25年3月期	25年3月期 KRP-M223の 契約一時金収入を控除	26年3月期	対前期	
				増減額	増減率(%)
売上高	1,301	1,218	1,270	+52	+4.2
新医薬品等(国内)	842	842	890	+48	+5.8
新医薬品(海外)	89	6	2	-4	-68.4
後発医薬品	371	371	377	+6	+1.7
売上原価	706	706	—	—	—
販売費及び一般管理費 (研究開発費)	470 (105)	470 (105)	— (104)	— (-1)	— (-1.1)
営業利益	126	43	61	+18	+40.5

新薬(ベオーバ、ラスビック等)の伸長により売上高は52億円の増収、営業利益は18億円の増益

2026年3月期 主力製品の売上予想

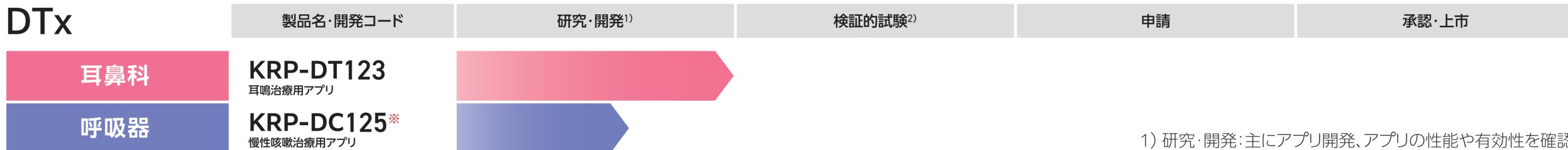
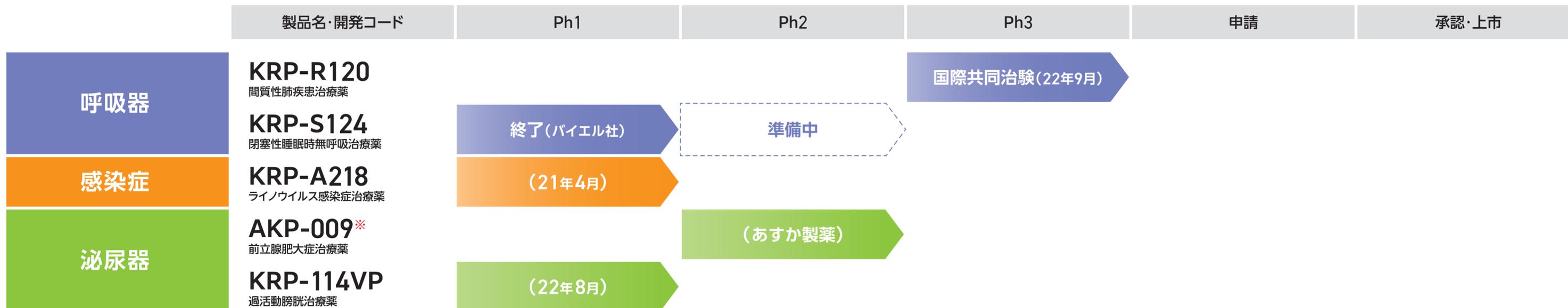


(単位：億円)

		25年3月期 (実績)	26年3月期 (予想)	対前期	
				増減額	増減率(%)
新医薬品等 (国内)	ベオーバ(自社販売分)	221	251	+30	+13.7
	ラスビック	78	85	+7	+8.3
	リフヌア	9	11	+2	+20.4
	デザレックス	96	101	+5	+5.0
	フルティフォーム	137	132	-5	-3.9
	ペンタサ	122	116	-6	-4.7
	キプレス	35	21	-14	-40.0
	ムコダイン	36	52	+16	+45.8
	ミルトン	18	18	0	-2.3
	ルビスタ	11	10	-1	-9.7
後発医薬品	モンテルカスト錠「KM」	120	113	-7	-5.6
	モメタゾン点鼻液「杏林」	41	43	+2	+4.5

■ 研究開発パイプラインの状況

※前回発表(3Q)からの変更点(2025年5月12日現在)



1) 研究・開発:主にアプリ開発、アプリの性能や有効性を確認
2) 検証的試験:主にアプリの臨床的意義を確認

導出品の状況	開発コード	導出先	開発段階	備考
	KRP-M223※	ノバルティス社	前臨床	●MRGPRX2拮抗作用 ●対象:マスト細胞が関与するアレルギー性疾患、炎症性疾患
	KRP-203	プリオセラ社	Ph3	●S1P受容体アゴニスト ●対象:急性骨髄性白血病で造血幹細胞を移植する患者 ●知的財産及び原薬等を譲渡(20年9月)

開発コード	契約先	開発段階	対象疾患	備考
BDT272	ビオドール社	Ph1 (フランス)	慢性疼痛	<ul style="list-style-type: none"> ●2025年1月 プレスリリース ●FLT3*阻害剤 ●市場：約2,315万人(日本) <small>※FLT3:受容体型チロシンキナーゼファミリー</small>

▶ Ph1試験結果を受けライセンス契約への移行判断(25年度中)

開発コード	契約先	開発段階	対象疾患	備考
CYR-064	シラーノ社	Ph2 (アメリカ)	感冒後嗅覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ●2025年2月 プレスリリース ●非特異的ホスホジエステラーゼ(PDE)阻害 ●市場：約100万人(当社試算)

▶ Ph2試験結果を受けライセンス契約への移行判断(25年度中)

開発コード	契約先	備考
機能性DRP	ベネイノ社	<ul style="list-style-type: none"> ●次世代ペプチド探索技術PERISS法を用いて、 標的膜タンパク質に対して作用する機能性ジスルフィドリッチペプチド(DRP)を取得 ●共同研究契約

開発コード	契約先	備考
EM-001	エバメド社	<ul style="list-style-type: none"> ●気道上皮細胞由来細胞外小胞 ●呼吸器疾患治療薬としての可能性を検討 ●オプション契約

試験概要：国際共同治験(Ph3)

試験名称	EFZO-FIT study
目的	肺サルコイドーシス患者を対象に、Efzofitimidを静脈内投与したときの有効性及び安全性を評価する
試験デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ○無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較 ○用法・用量：Efzofitimid 3mg/kg, 5mg/kg又はプラセボを4週間隔で点滴静注投与
評価項目	<ul style="list-style-type: none"> 主要評価項目 ● OCS漸減終了後におけるOCSの1日平均投与量のベースラインからの変化量 副次評価項目 ● FVC(努力肺活量)の年間変化率(絶対値) ● OCS漸減終了後における1日平均投与量のベースラインからの変化率 ● 48週時点における、KSQ-Lungスコアのベースラインからの変化量



順調に進捗し、2025年度中にPh3試験終了予定

対象疾患：閉塞性睡眠時無呼吸(OSA)

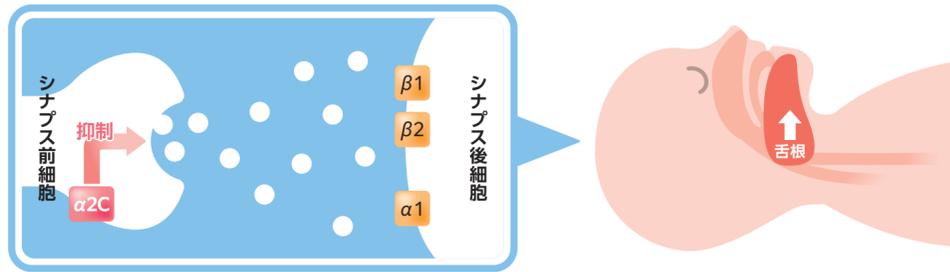
<p>特徴</p>	<p>睡眠中に上気道の完全又は部分閉塞により、無呼吸又は低呼吸を繰り返す</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>日中の過度な眠気 倦怠感 不安定な睡眠 いびき 頭痛</p> </div> <div style="font-size: 2em;">▶</div> <div style="text-align: center;">  <p>日常生活への影響 (交通事故、労働災害など) 合併疾患 (心筋梗塞、脳梗塞など)</p> </div> </div>
<p>患者数</p>	<p>全世界の推定罹患数 10億人 うち、中等症以上の患者(AHI^{※1} ≥ 15/hr) : アメリカ2,368万人、EU主要5カ国5,027万人、日本943万人^{※2}</p>
<p>現行治療</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● CPAP(持続気道陽圧療法) 保険診療上の適応基準:AHI ≥ 20/hr ● 口腔内装置 ● 外科的手術 ● 薬物治療(チルゼパチド : 2024年12月 肥満症を伴うOSA治療薬として米国で承認)

OSAは治療選択肢が少ない状況下、高いアンメットメディカルニーズがある疾患

※1 AHI:無呼吸低呼吸指数

※2 Lancet Res Med 7(8) 687-698,2019

KRP-S124 概要

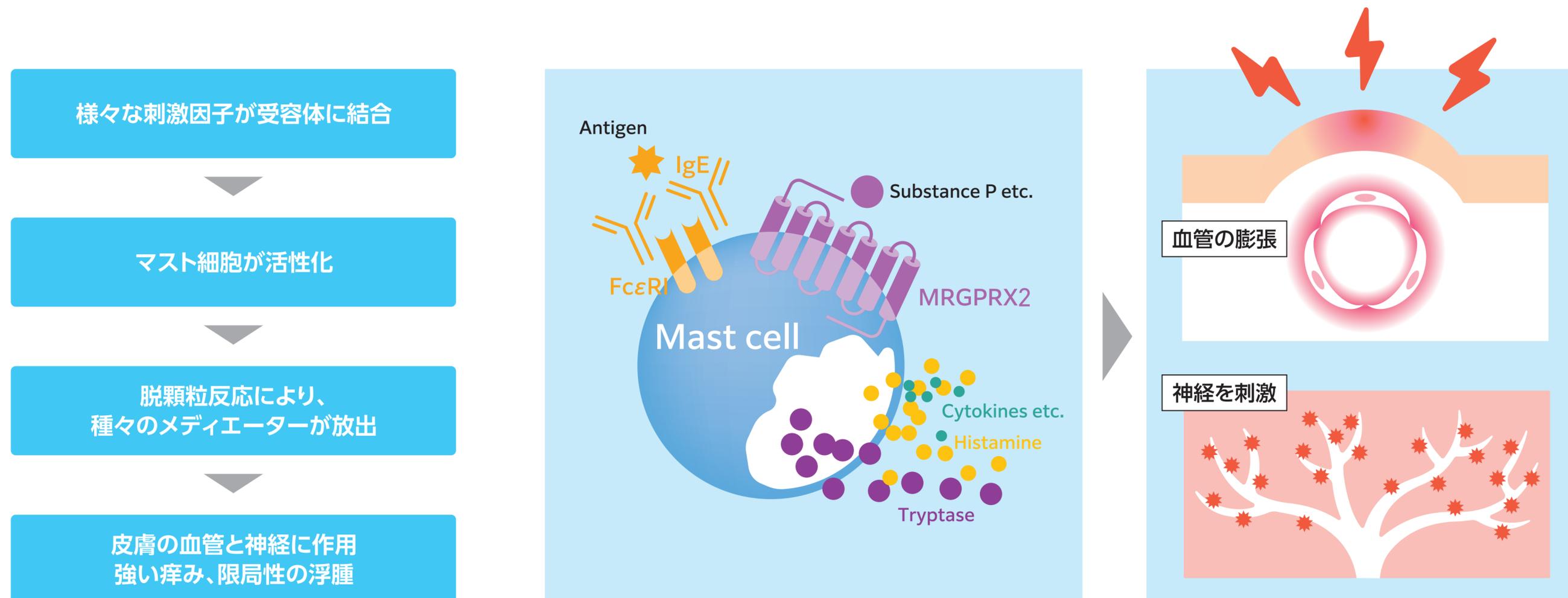
対象疾患	閉塞性睡眠時無呼吸(OSA)等	
作用機序	ADRA2C拮抗作用により、シナプス間隙のノルアドレナリン量が増加、オトガイ舌筋の緊張を亢進させ、上気道虚脱を軽減させる	
ターゲットとする患者層	中等症、軽症患者の一部、重症患者(全世界で約1億人)	
剤形	経口剤	
開発状況	Ph1試験終了(ドイツ) Ph2a試験に向け準備中(26年度中の開始を目指す)	
今後の方向性	サブライセンスアウト等を含め、ワールドワイドでの開発を進める	



全世界で1,000億円以上の売り上げを目指す

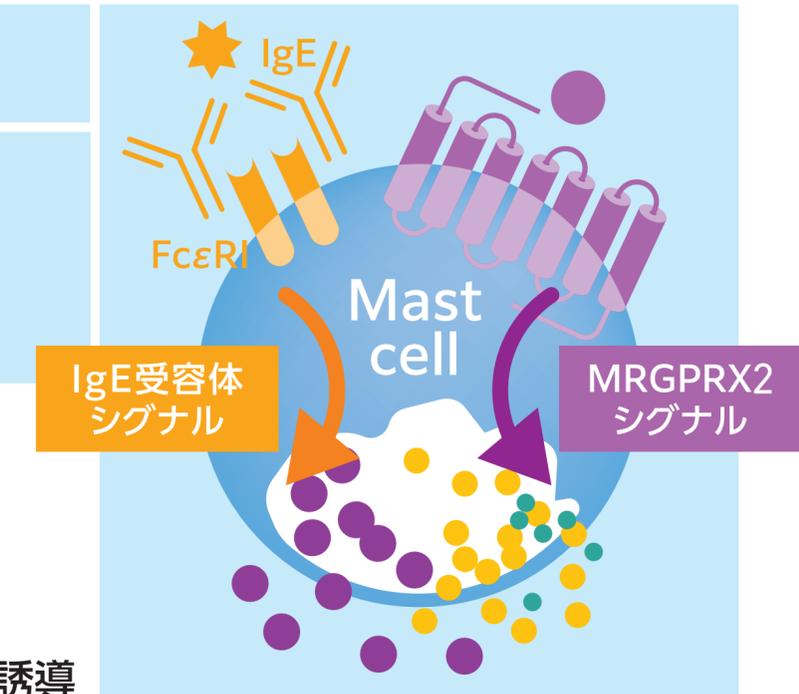
対象疾患：慢性特発性蕁麻疹(CSU)

- かゆみを伴う皮疹もしくは深部組織の膨張が6週間以上継続する、原因不明の蕁麻疹
- マスト細胞の活性化による脱顆粒反応により引き起こされる
- 全世界で4,000万人が罹患(有病率0.5-1%)
- 現行治療：抗ヒスタミン薬、抗IgE抗体製剤、抗IL-4/IL-13受容体抗体製剤



KRP-M223 概要

対象疾患	マスト細胞が関与する慢性特発性蕁麻疹などのアレルギー性疾患・炎症性疾患	
作用機序	MRGPRX2拮抗作用	
開発状況	前臨床(以降の開発はノバルティス社で実施)	
経済条件	一時金 マイルストーンペイメント ロイヤリティ	55百万米ドル(2024年度計上) 開発～売上 最大777百万米ドル 非開示



MRGPRX2

- マスト細胞に発現しているGタンパク質共役型受容体
- マスト細胞を介したアレルギー、炎症反応に関与
- サブスタンスPなど、様々なリガンドの受容体
- IgE受容体を介した反応とは異なるシグナルで脱顆粒反応を誘導

現行治療で効果が得られない患者でも有効性が得られる治療薬として期待

KRP-DT123

2023年9月 特定臨床研究実施中

対象疾患	耳鳴
研究名称	耳鳴患者を対象とした耳鳴治療用アプリの多施設共同ランダム化二重盲検比較試験(パイロット試験)
主要評価項目	研究用アプリ処方後16週時点における0週時点からのTHI合計スコアの変化量
対象	苦痛を伴う慢性耳鳴患者(18歳以上75歳未満)
予定被験者数	60例



2025年度秋の学会にて
研究代表医師より試験結果発表予定

KRP-DC125

2025年2月 ハイフ社との開発についてプレスリリース

対象疾患	慢性咳嗽
特徴	慢性咳嗽治療用アプリ BCST(行動変容を促し慢性咳嗽を軽減する非薬理的治療法)とハイフ社のAIを活用した咳モニタリング技術を活用
市場(患者数)	慢性咳嗽患者 約250万人
開発ステージ	アプリ開発



2025年度臨床試験
開始に向けて準備中

■ 中期経営計画「Vision 110 –Stage 1–」達成に向けた取り組み

Vision 110

— Stage 1 —

医療ニーズに応える価値の高い新薬の創出力強化

導入による開発パイプラインの拡充

新薬比率の最大化

新医薬品事業と相乗効果のある健康関連事業の推進

持続可能な企業基盤の構築

[創薬研究]

創薬イノベーションによる創出力強化

KRP-M223 | 導出

開発候補品の創出

[インキュベーション]

将来に繋がる製品・技術の見極め

機能性DRP

EM-001

[導入]

導入による開発パイプラインの拡充

KRP-S124

DTx | KRP-DT123

BDT272

DTx | KRP-DC125

CYR-064

開発パイプラインの充実化

開発～申請・承認

導入案件6件以上／Stage1目標値

オプション権獲得(将来的な導入)
資本提携・M&A等

医療ニーズに応える価値の高い新薬

●2024年度 実績

創薬研究

1件(導出)

導入

4件

インキュベーション

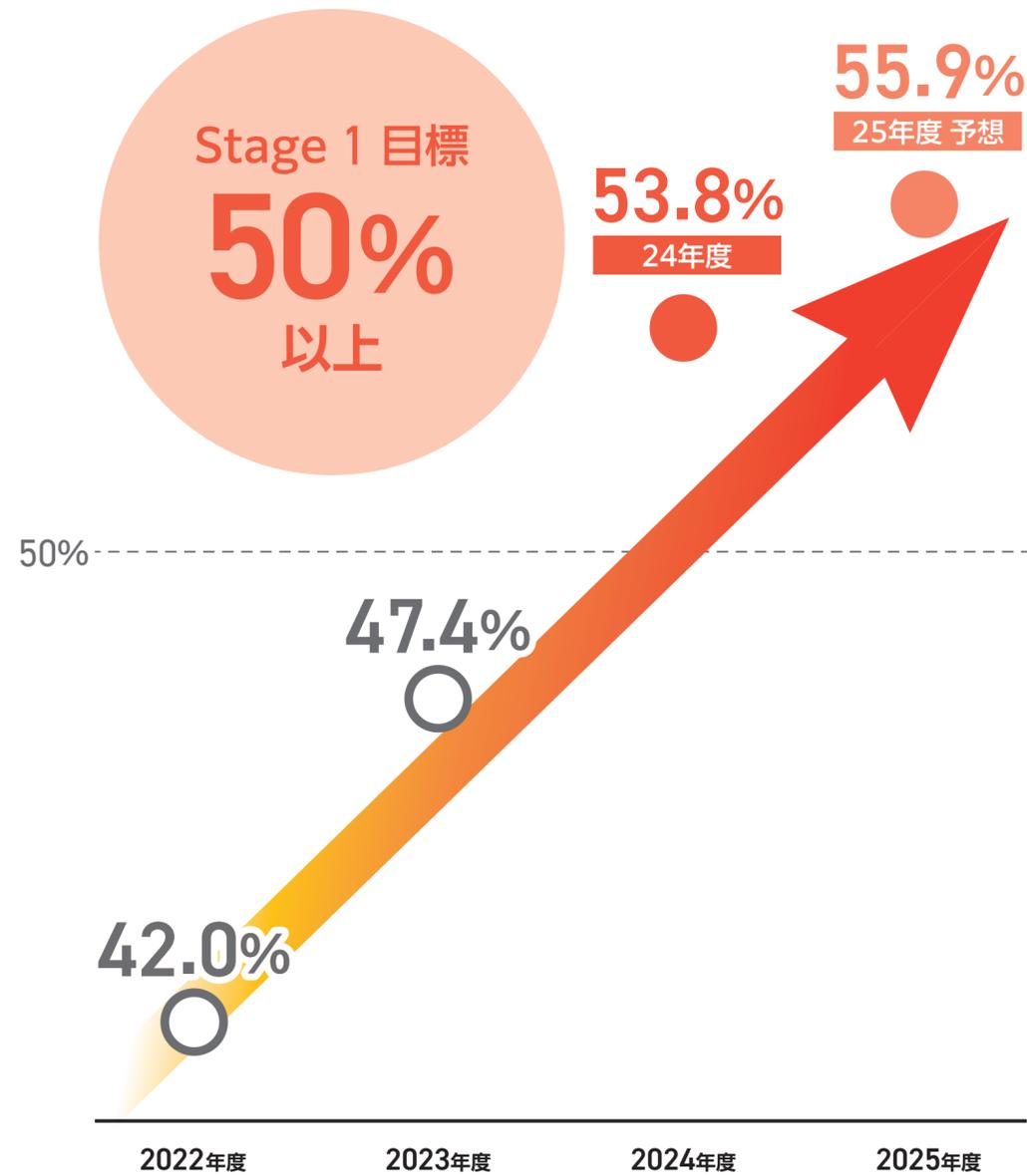
1件

●2025年度 取り組み

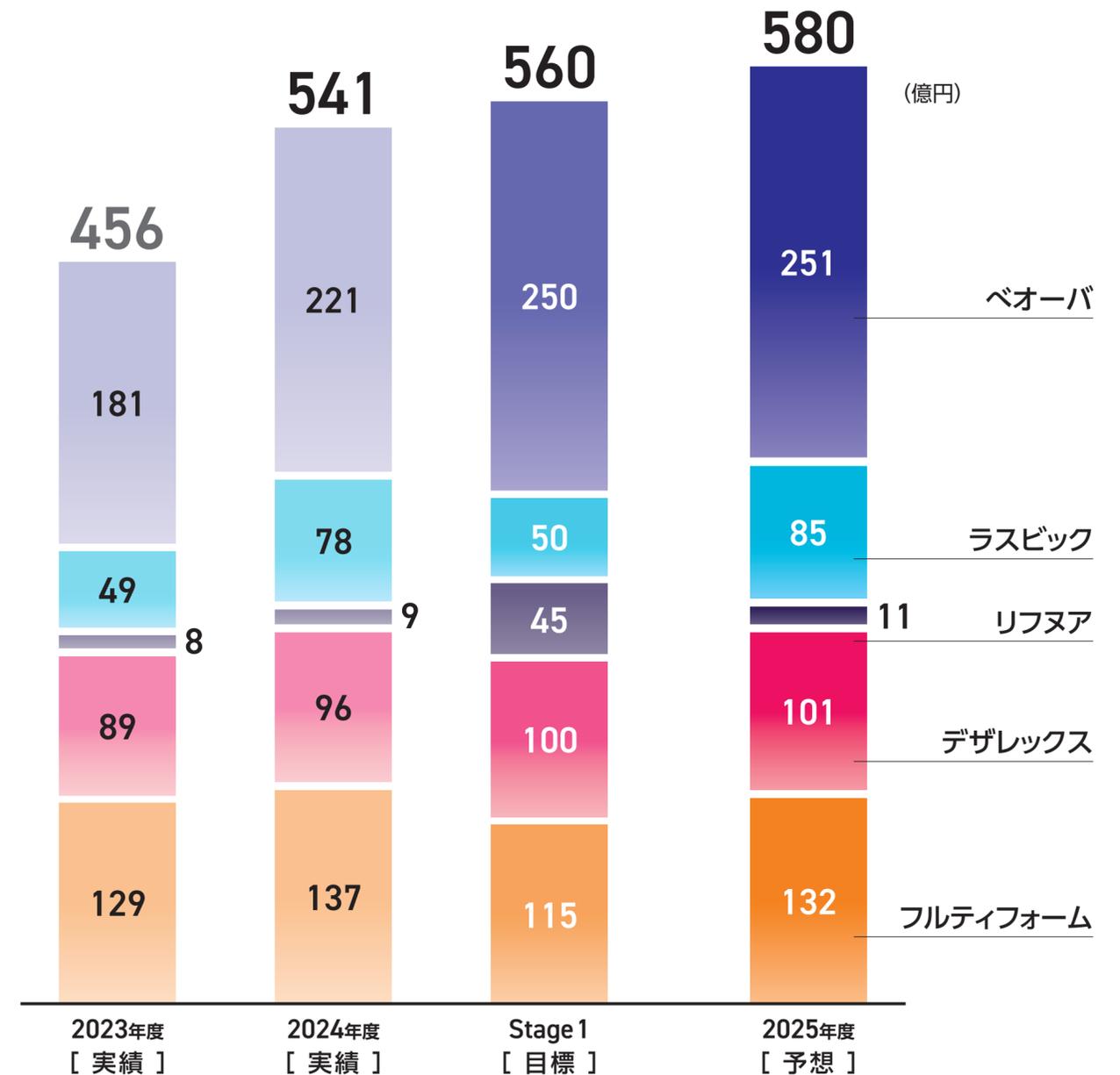
早期に業績貢献が見込める品目(上市品を含む)を中心に2件以上の導入品を獲得

新薬比率

新薬比率は、目標を上回って推移



主力5製品売上



Stage1 目標	2024年度 結果	2025年度 取り組み
-----------	-----------	-------------

ベオーバ®

- 2023年度に OAB市場売上No.1獲得* 達成
- OAB治療薬患者シェア50%獲得*

OAB新患獲得割合	55.3% ^{注1} _※
患者シェア	42.3% ^{注2} _※ (前年同期 34.2%)

- 一般内科での患者シェア拡大
- HP泌尿器科の面談率向上と継続的な面談機会創出
- 受診率増加に向けた疾患啓発

※併売会社との2社合計

ラスビック®

- 2023年度に経口NQ市場で 売上シェアNo.1獲得 達成
- 経口NQ市場で売上シェア40%獲得

経口NQ市場売上シェア	36.1% ^{注2} (前年同期 24.6%)
-------------	-------------------------------------

- 各ガイドラインに沿った治療と治療薬の選択を広く啓発
- ラスビックの独自性と新しいポジションの明確化

HP：大学病院を中心にエリア基幹病院での新規採用拡大
GP：AMR対象疾患（副鼻腔炎、扁桃炎、咽頭喉頭炎、急性気管支炎）、肺炎での処方提案を推進

リフヌア®

- 2025年度下期 納入軒数

GP層	約10,000軒 ▶ 7,500軒へ目標修正
HP層	約2,000軒 ▶ 1,680軒へ目標修正

原因疾患を十分治療しても咳が残存する患者へのファーストチョイスの位置付けの確立を目指す

納入軒数
GP層：約6,600軒
HP層：約1,340軒

- 咳嗽・喀痰の診療ガイドライン2025及び新たなエビデンスの活用
- 服薬継続日数向上
(長期データを含めた有効性の訴求、安全性に関する説明)

注1: Copyright © 2025 IQVIA. IQVIA Rx 2025年3月を基に自社分析 無断転載禁止
注2: Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2024年3月MAT, 2025年3月MATを基に自社分析 無断転載禁止



咳嗽・喀痰の診療ガイドライン (2025年4月 発刊)

改訂のポイント (抜粋)

- 咳嗽・喀痰に対する治療の推奨度を明記
- 咳過敏症 (Cough hypersensitivity) の重要性
- 難治性慢性咳嗽について詳説

日本呼吸器学会, 咳嗽・喀痰の診療ガイドライン2025. p.x.v. メディカルレビュー社より一部改変

巻頭フローチャート: 成人遷延性・慢性咳嗽への対応にP2X3受容体拮抗薬が追加

- 難治性咳嗽 [推定される原因治療に不応性 (RCC) / 原因不明 (UCC)] では、咳過敏症症候群 (CHS) として P2X3 受容体拮抗薬の使用を検討する

日本呼吸器学会, 咳嗽・喀痰の診療ガイドライン2025. p.v. メディカルレビュー社より一部抜粋

ガイドラインにて明確となった難治性慢性咳嗽の定義、
P2X3受容体拮抗薬の位置付けのもと、治療推奨薬として普及を図る

Vision 110

Stage 1

医療ニーズに応える
価値の高い新薬の創出力強化

2024年度 結果

- KRP-M223導出

2025年度 取り組み

- 自社研究及び外部技術獲得を推進
- 研究開発パイプラインの充実

導入による開発パイプラインの拡充

- 導入案件 4件
 - KRP-S124
 - BDT272
 - CYR-064
 - KRP-DC125

- 早期に業績貢献が見込める品目(上市品を含む)を中心に2件以上の導入品を獲得

新薬比率の最大化

- 新薬比率 53.8%
- 新薬売上高 541億円

- 新薬比率 55.9%
- Stage1目標(560億円)を上回る580億円を目指す

新医薬品事業と相乗効果のある
健康関連事業の推進

- 感染症関連製品売上 120億円
- 高岡工場でムコダイン、アムロジピン出荷
- ムコダイン錠増産
- GeneSoC mini 2 新発売
- 追補収載品1成分2品目

- 感染症関連製品売上 Stage1目標(100億円)を上回る127億円を目指す
- ムコダイン錠の更なる増産
- 井波工場から高岡工場への製品移管

持続可能な企業基盤の構築

- 業務の効率化とコスト削減(本社移転等)

- 業務の効率化とコスト削減

1. 数値目標(連結ベース)		成果目標(Stage 1)	2025年度予想
成長性	売上高年平均成長率 (CAGR) 2022年度を起点	2%以上	3.9%
収益性	研究開発費控除前 営業利益率 (営業利益 + 研究開発費)	16%以上	13.0%

収益性におけるStage1成果目標値と25年度予想値の差異：為替、原材料・光熱費等のコスト高騰、選定療養の影響
→新薬を中心として売上高の伸長、コスト削減により、収益性の向上を目指す

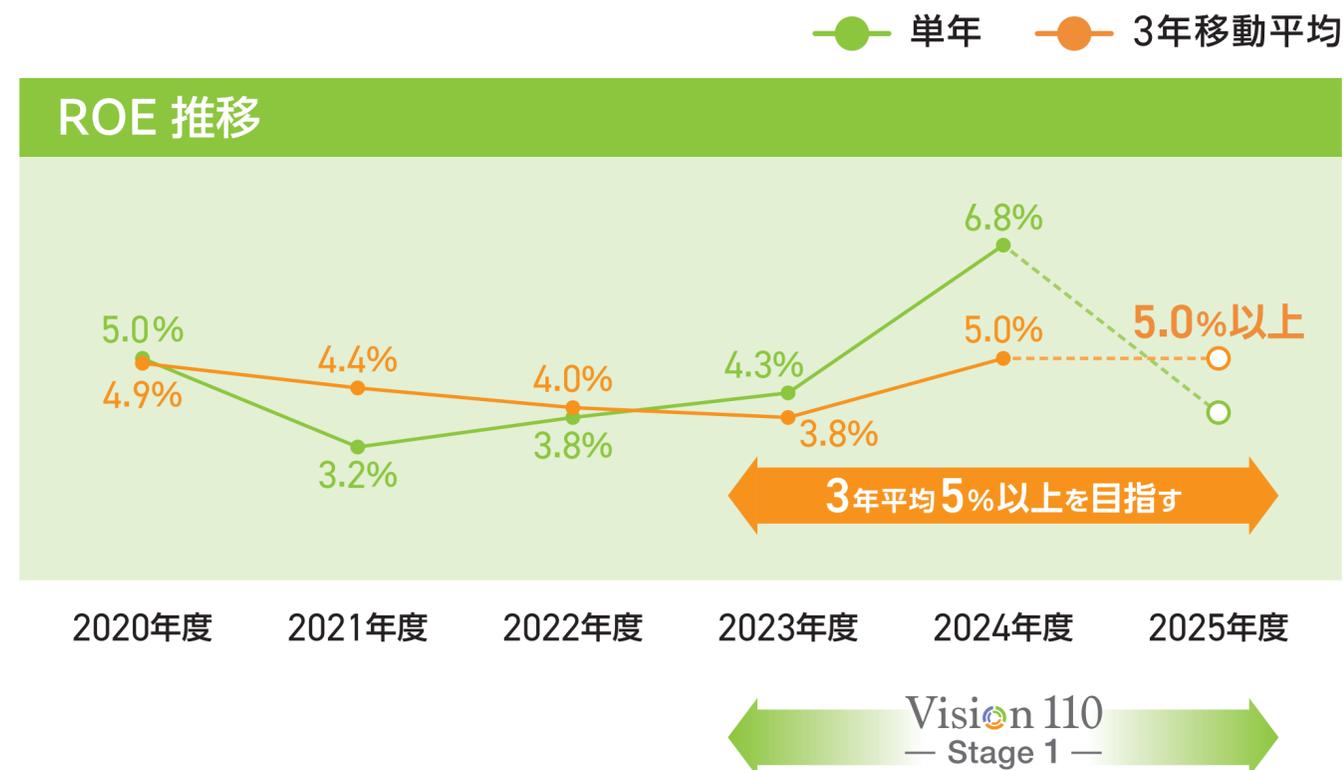
2. 資本政策と株主還元

資本政策においては、健全な財務基盤を維持しつつ、常に資本コスト・資本収益性を意識した上で、成長投資と株主還元を通じて、資本効率の向上を図ることを基本方針とします。株主還元については、DOE(株主資本配当率)を勘案して、安定した配当を継続します。

中長期的な企業価値向上と 持続的な成長に向けた取り組み

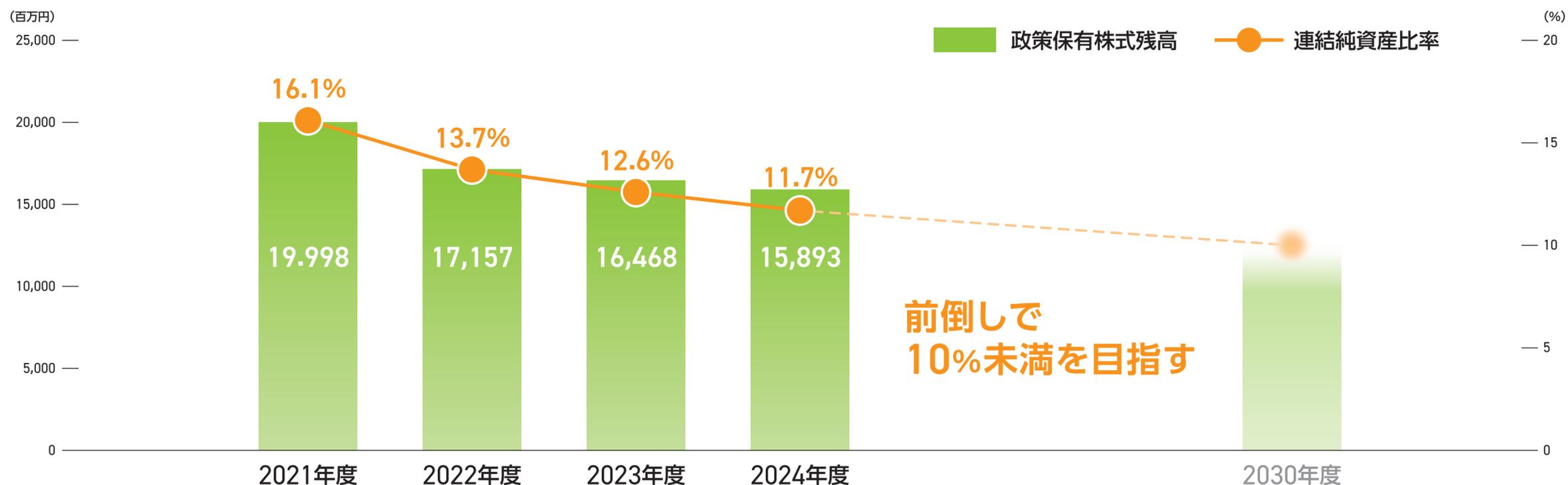
～ 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて ～

- PBRは、2025年3月末時点で0.6倍と1倍を下回る水準で推移しており、当社の課題と認識
- Vision110－Stage 1－（2023年度～2025年度）で掲げる、新薬比率の最大化、コスト競争力の向上、新薬の創出力強化、導入による開発パイプラインの拡充を推進し、ROE・PERの向上によりPBRの改善を目指す
- ROEは、Vision110－Stage 1－の**3年平均で、5%以上**（当社の株主資本コスト相当以上）を目指す



縮減目標

2030年度までに、連結純資産比率10%未満



銘柄合計	25	21(▲4)	20(▲1)	20
上場株式	14	12	11	11
非上場株式	11	9	9	9

直近4年間で、5銘柄を縮減

2025年度は、1銘柄以上の縮減を目指す

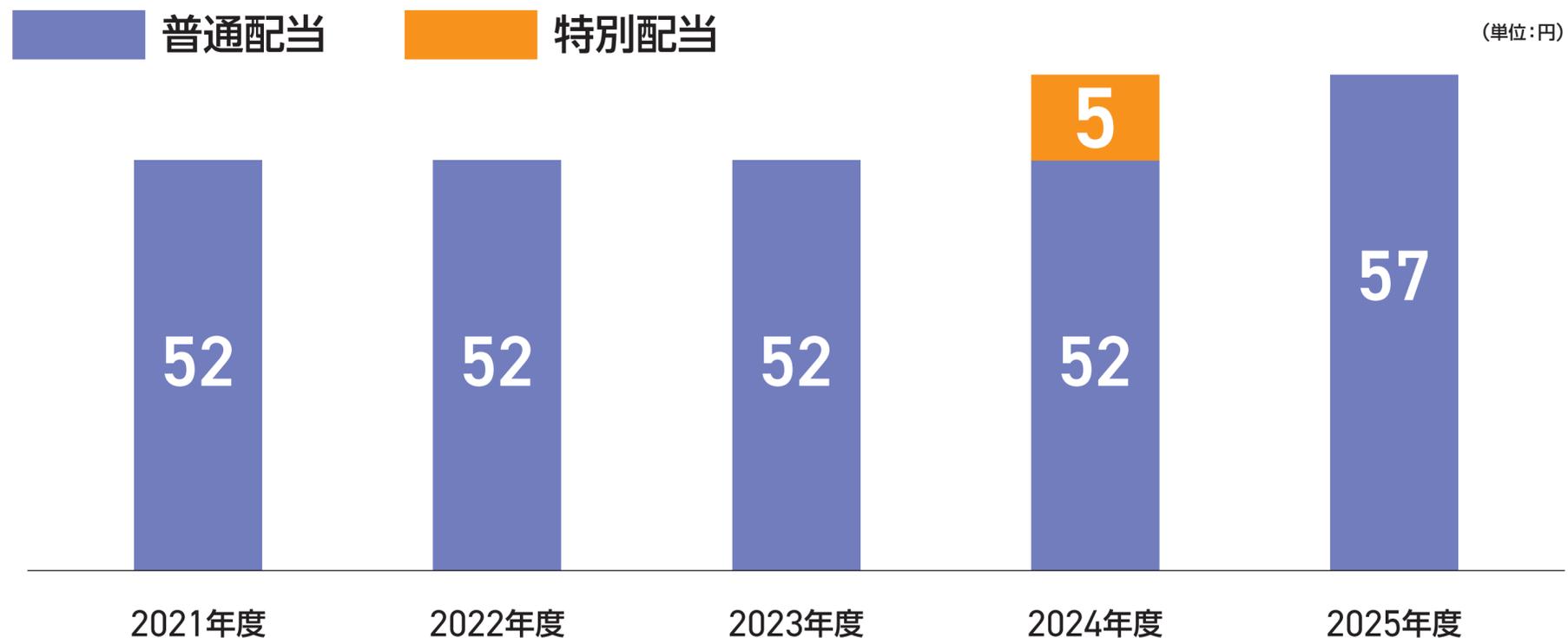
●配当(増配)について

2024年度

- 2024年度は、ノバルティス社とライセンス契約を締結したことに伴う契約一時金収入を計上したこと等により、対前年で大幅な増益を達成
- 期末配当(32円)について、**1株当たり5円(特別配当)を増配し37円**
- 中間配当(20円)を合わせた年間配当は、1株当たり57円

2025年度

- DOE(株主資本配当率)を勘案して、安定した配当を継続するという株主還元方針のもと、**年間57円(中間配当20円、期末配当37円)の配当を維持**



●自己株式の消却について

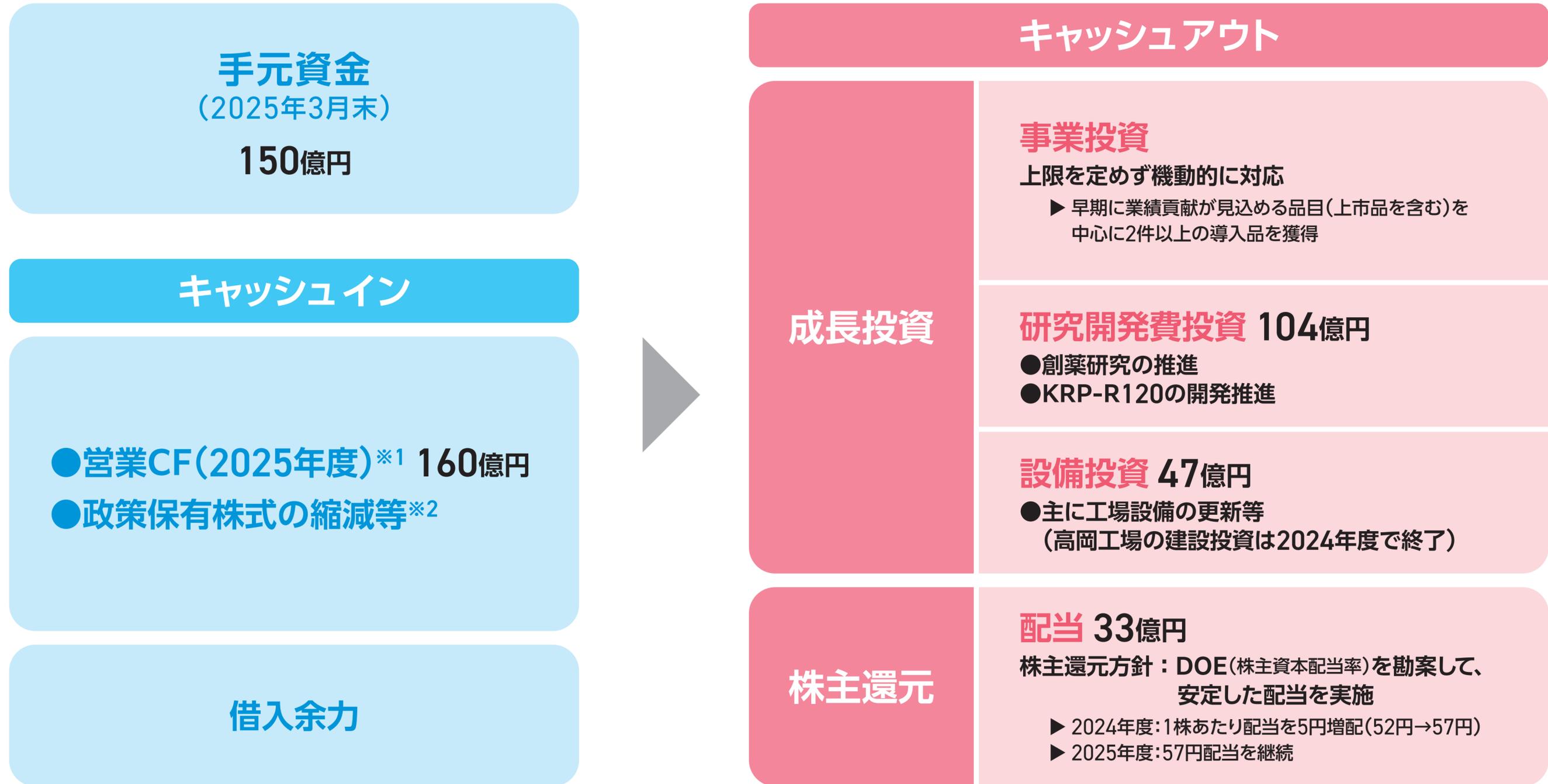
資本効率の向上および株主還元の一環として、自己株式を消却

消却する株式の種類	当社普通株式
消却する株式の数	4,662,295株（消却前の発行済株式総数に対する割合 7.2%）
消却予定日	2025年5月30日

ご参考 自己株式消却後の当社株式の状況

発行済株式総数	59,945,641株
自己株式数	1,800,000株※（消却後の発行済株式総数に対する割合 3.0%）

※上記の消却後の自己株式数には、「株式給付信託(BBT)」導入に伴い、(株)日本カストディ銀行(信託E口)が所有する83,276株、「株式給付信託(J-ESOP)」導入に伴い、(株)日本カストディ銀行(信託E口)が所有する606,395株は含まれておりません。



※1 研究開発費控除前

※2 政策保有株式の縮減目標:2030年度までに連結純資産比率10%未満

●将来見通しに関する注意事項

本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

Kyorin 